

第3回 兵庫県立神出学園・兵庫県立山の学校の 機能充実に向けたあり方検討委員会 資料

「今後の議論の方向性(案)について」

令和8年3月18日
兵庫県県民生活部男女青少年課

1 施設を取り巻く状況の整理

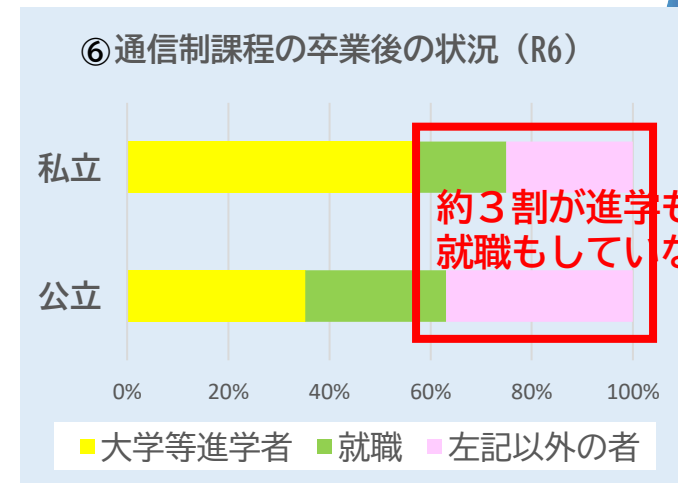
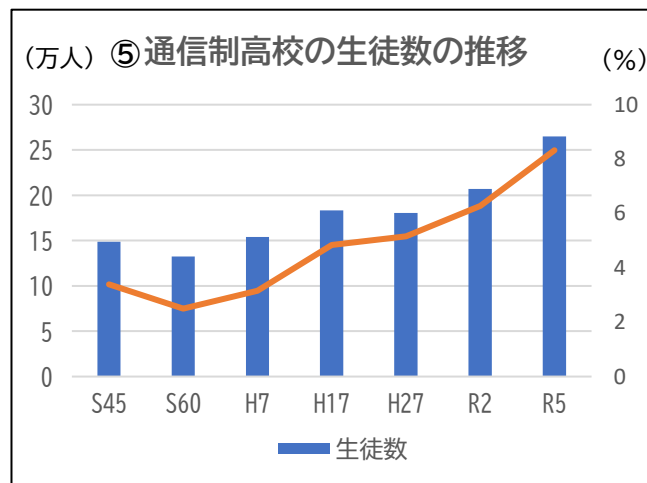
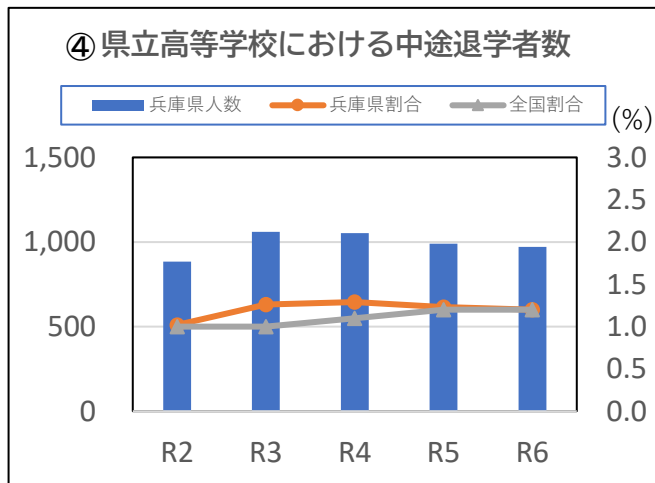
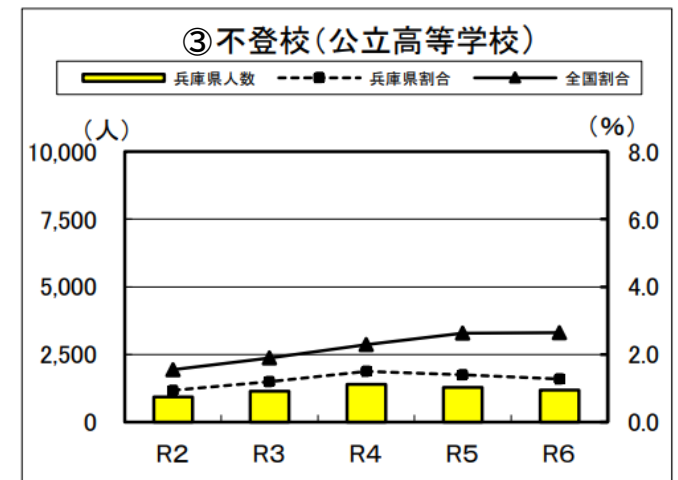
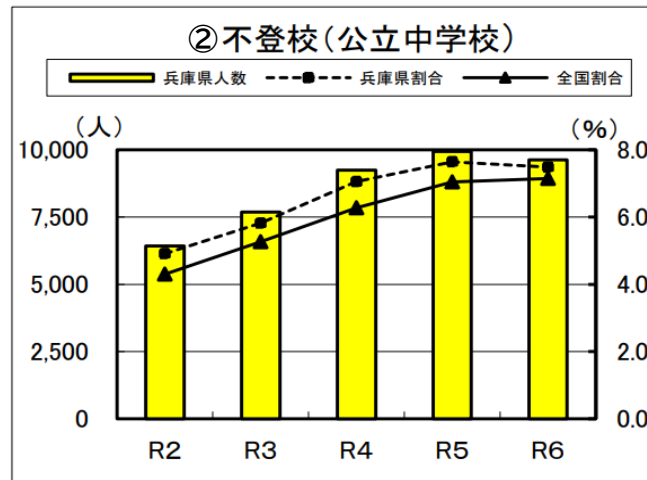
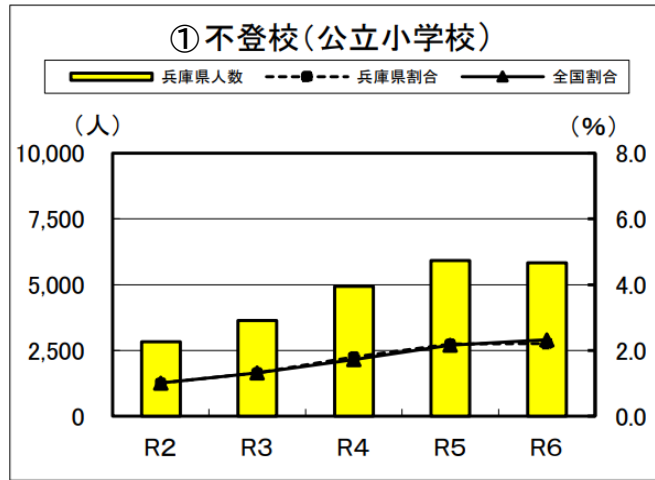
(1) 時代の変化

- ① 不登校児童・生徒の急増
- ② 通信制高校等の増加



【課題】

・ 不登校経験者の多くが通信制高校等に進学しており、通信制高校が急増する不登校経験者の受け皿となっているが、卒業後の進路に課題（卒業生の約3割が進学も就職もしていない）



(出典) ①～④県教委「兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況」
 ⑤・⑥文部科学省「学校基本調査」

(2) 施設の現状と課題

① 施設の役割の変化

【設置当初】

神出学園：無職の青少年の支援

山の学校：問題行動のある青少年の支援



【現在】

両施設とも**不登校経験者**、特に**配慮を要する方**等が大半。

※受入れにあたり**心理カウンセラー等の配置が必要**となっている。

→不登校経験者への支援を行うという点で、**両施設の役割の違いは無くなってきている**。

② 入学者の減少

特に**山の学校の入学者数の減少**が顕著。

一方、神出学園も減少はしているものの一定の利用がある。

【各施設の入学者の推移】

	設置直後 (3年平均)	直近 (3年平均)	増減率
神出学園	29.7人	19.0人	▲31%
山の学校	19.7人	6.3人	▲68%

③ 財政負担が大きいため、**効率化しつつ効果的に活用**し費用対効果を高めていく必要。

2 委員会における検討状況

(1) 検討の目的

設置後30年を経過した県立神出学園・県立山の学校について、不登校児童生徒・ひきこもり者増加等の社会情勢等を踏まえ、時代に即した施設のあり方等を検討

(2) これまでの議論の状況

第1回委員会 (R7.9.5) 施設の現状・課題整理
第2回委員会 (R7.12.15) 施設の意義・必要性整理

(3) 委員会における論点ごとの意見（抜粋）

論 点	意 見 内 容
施設の意義 ・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校経験者等の支援施設として、民間フリースクール等では実施できない体制・取組がある ○充実した施設設備・体験プログラム等による、非認知能力を高める「育ち直し」の支援 ○専門スタッフによる、配慮を要する子どもたちへのきめ細かな支援 ・青少年の自立・社会参加を促すことで、大きな先行投資になる ・山の学校は設置当初の役割は終えたとの意見もあり、今後の実施方針を見直す必要
効率的・効果的な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人当たり約400万円を投じる一方、膨大な不登校・ひきこもりに対して受入れ数はごく一部 ・入学者数を増やしても収入増につながらないため、効果的な活用を目指すしかない ・現状の運営では収益は見込めないため、民間事業者の参入は困難
今後の取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・受入れ対象年齢の拡充 ・在籍期間の延長・弾力化 ・外部交流の拡充 ・高卒資格取得の支援拡充 ・生活支援の継続 ・積極的なPR 等



【多様な意見のまとめ】

不登校を経験した青少年の自立支援に大きな意義があり、両施設の役割を整理し直しつつ、更なる機能充実やPRに努め、これまで以上に不登校経験者への支援の拠点施設として活用を図るべき

3 議論の方向性

(1) 状況の整理

委員会意見	<ul style="list-style-type: none">・ 施設に大きな意義・ 更なる充実により、不登校経験者の支援の拠点として活用すべき
社会情勢	<ul style="list-style-type: none">・ 不登校の増加・ 通信制高校が不登校の受け皿として増加も、卒業後の進路に課題
施設の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 両施設の役割の同質化・ 生徒数の減少（特に山の学校で顕著）
県の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 厳しさを増す財政状況（投資事業抑制の方針）



**不登校経験者の社会的自立に向けた支援の拠点としての
機能強化と運営効率化の両立が必要**

(2) 施設の統合【事務局提案】

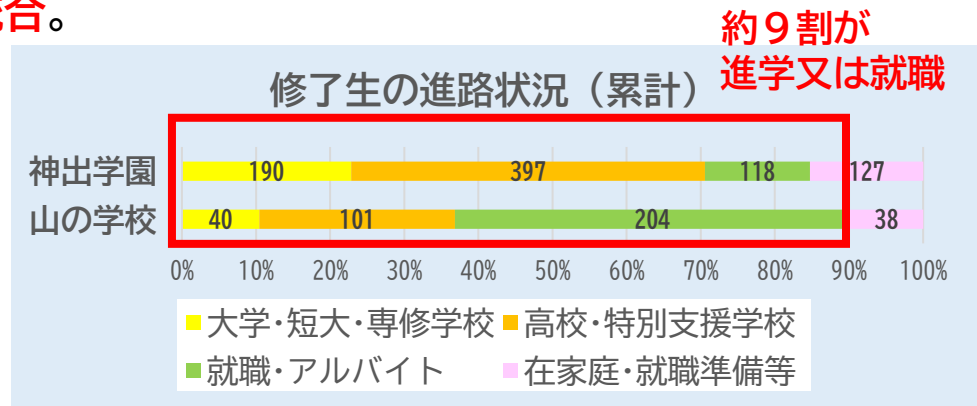
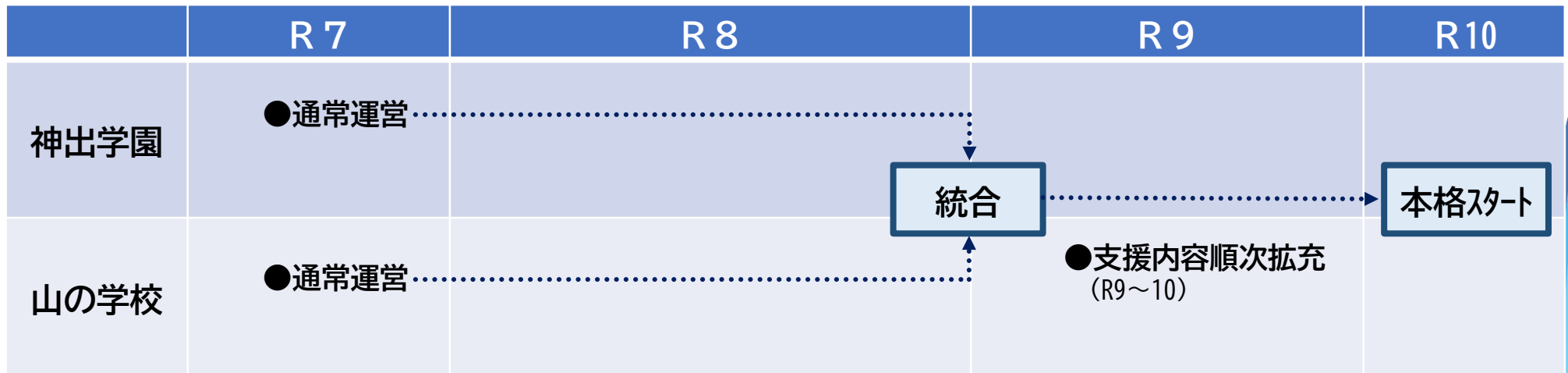
○ 役割の変化や入学者数の減少を踏まえ、**両施設を統合**。

○ 統合後の施設は、時代の変化を踏まえ、長期のひきこもりとならないよう、「**不登校経験者への支援**」という文脈で**役割を再定義し、支援を充実**。

⇒通信制高校等とも連携を強化しつつ、**社会性やコミュニケーション能力等を養い、社会的自立を促す**（＝「**ステップアップ・ベース**」）

○ 統合後の拠点施設として、現行の**神出学園を活用**（名称変更を検討）。

【統合スケジュール案】



(3) 統合後の施設のあり方

引き続き、役割を踏まえ新たな施設での**支援内容の見直し**や**運営の効率化**について検討。
（今後のスケジュール(案)）

第4回委員会 令和8年5～6月（支援内容の見直し・効率化の方策等議論）

第5回委員会 // 7～8月（議論のとりまとめ）